

第110回(昭和60年10月)講演大会講演募集案内 会告

申込み(原稿同時提出)締切り 昭和60年7月4日(木)

本会は第110回講演大会を昭和60年10月4日(金)、5日(土)、6日(日)の3日間新潟大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さいますようお願いいたします。

講演希望の方は、昭和60年7月4日(木)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

なお、本大会におきましても別記講演分類に関する内容の応募講演の他、指定テーマによる講演を設けましたので多数ご応募下さいますようお願いいたします。

また、ご承知のとおり今春第109回講演大会より、新しく萌芽・境界技術部門を設けております。指定テーマに限らず、広く、本部門へご応募下さるようお願いいたします。

講演ならびに申込み要領

1. 講演内容
1) 別記13.「講演分類表」の学術・技術に直接関連あるオリジナルな発表
2) オリジナルな研究のほか、委員会において企画した総説、解説等の講演
2. 講演時間
1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
3) 商品名・略号等は表題ならびに本文いずれにおいても原則としてご遠慮願います。
4) 謝辞は省略して下さい。
5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙(1600字詰)1枚とします。しかし内容的にやむを得ない場合は2枚まで認めます。(いずれも表、図、写真を含む)ただし編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
8) 図、表、写真中の表題ならびにその中の説明は、英文といたします。
9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。(協会記事 N130 ページ参照)

4. 講演申込み資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。

5. 講演申込み制限

- 1) 講演申込みは1人3件以内といたします。
- 2) 連報講演は原則として一講演会あたり3報までとします。ただし連報形式として申し込まれてもプログラム編成の都合により連続して講演できない場合がありますのでご了承下さい。

6. 申込み方法

本誌および次号会告末に添付されている講演申込み用紙ならびに受領通知葉書に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申込み下さい。

7. 申込み用紙の記載について

- 1) 申込み用紙は(A)、(B)、(C)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込み用紙および受領通知葉書は前号と本号会告末に綴り込まれております。)
- 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
- 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
- 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込みの受理

下記の申込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意ください。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込み
- 2) 必要事項が記入されていない申込み
- 3) 単なる書簡または葉書による申込みならびに電報、電話による申込み
- 4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの
- 5) 図・表・写真が英文でないもの

9. 講演原稿取り下げ

プログラム決定後の講演原稿の取り下げはお断りいたします。

10. 申込み締切日 昭和 60 年 7 月 4 日 (木) 17 時着信まで

申込み用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

11. 申込み先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 (社)日本鉄鋼協会編集課

(電) 03-279-6021 (代)

12. 講演概要は英文化(所定のタイプ用紙1枚)し、Trans. ISIJ (欧文会誌)に投稿できるようになっておりますので、多数ご投稿下さるようご案内申し上げます。

13. 講演分類表 (注) 講演申込書の「講演分類欄」に下記講演分類のいずれに該当するか、必ず番号をご記入下さい。

①製 鉄				②製 鋼				③加工・システム・利用技術								④分析・表面処理				⑤材 料							⑥萌芽・境界技術
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
原	製	耐	そ	精	鋳	耐	そ	圧	鋳	加	溶	計	シ	*1	そ	分	表	環	そ	基	熱	強	塑	高	腐	そ	新
料	煉	火	の	錬	造	火	他	延	造	熱	接	測	ス	二	他	析	面	境	他	礎	処	度	性	温	食	他	素
・	ス	物	他	の	凝	物	ス	精	粉	冷	鋼	制	次	加	防	理	管	他	物	理	・	性	特	耐	他	材	
燃	ラ	ス	ラ	ス	固	ラ	グ	整	冶	却	構	御	工	工	食	食	理	他	組	組	織	・	性	性	性	・	
料	グ	グ	グ	グ	グ	グ	グ	金	金	金	造	造	理	理	理	理	理	理	織	織	織	織	織	織	織	新	
																										素	
																										材	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	
																										新	
																										ブ	
																										ロ	
																										セ	
																										ス	
																										エ	
																										ス	
																										・	

(4) 溶融還元

溶融還元プロセスは将来における有力な製鉄法としてその実現が期待され、わが国を含め世界各国において、また国際的共同の形で鋭意開発研究が進められつつある。本プロセスはBF-BOF, DR-EF法など既存のプロセスと比較して、製鉄・製鋼にまたがる課題を多く包含しているため共通部門としてその基礎的研究、将来の展望および各種製鉄法における位置づけ等に焦点を合せたオリジナルな研究、技術報告的な講演を募集いたします。

なお、本テーマにおきましては応募講演の他は、次の依頼講演を予定しております。

- ① 溶融還元プロセスの今後の展望 東北大学選鉄製鉄研究所教授 徳田 昌則氏
- ② An Innovative Furnace for Direct Smelting McMaster University Prof. Lu, Wei-Kao
- ③ フェロクロム溶融還元の基礎的研究 新日本製鉄(株)製鋼研究センター所長 梶岡 博幸氏
- ④ 溶融還元プロセスを中心とする各種製鉄法の比較 (株)神戸製鋼所技術情報企画部次長 西田禮次郎氏

日本鉄鋼協会役員

昭和60年3月31日開催の年会第70回通常総会において理事、監事および評議員の選挙が行なわれました結果下記のごとく当選されましたのでお知らせいたします。

理 事 (任期2年 15名)

浅野 鋼一	一瀬 英爾	大谷 正康	大橋 延夫	岡 雄彦	加藤 健三
木下 亨	草川 隆次	栗田 満信	後藤 和弘	白松 爾郎	堂山 昌男
原田 利夫	松原 嘉市	横井 信			

監 事 (任期2年 1名)

濤崎 忍

評 議 員 (任期2年 122名)

秋田 正彌	明田 義男	浅岡 善一	新井 宏一	荒田 俊雄	安生 浩
安藤 卓雄	伊藤 正	伊藤 慶典	井上 敏郎	井上 浩行	池島 俊雄
池田 正	石原 幸雄	今井勇之進	岩村 英郎	上杉 年一	上野 利夫
江口 勇	小田 助男	小原 信二	大岡 耕之	大竹 正	大中都四郎
大野嘉久蔵	大橋富士夫	大森 康男	大日方達一	岡田 秀彌	沖信 春男
荻野 和己	加藤 栄一	加藤 哲男	檜原 昌夫	片山仁八郎	金尾 實
金尾 正雄	金山 千治	川口 三郎	河田 和美	河西 健一	木村 利秋
菊池 實	久能 一郎	久米 是志	串村 俊平	熊谷 典文	黒津 亮二
小島 浩	小沼 敬祐	小柳 明	古茂田敬一	五弓 勇雄	近藤 明
近藤 真一	佐藤 忠雄	佐野 幸吉	佐野 信雄	雑賀 喜規	雀部 實
沢村 宏	設楽 斉	清水 峯男	杉之原幸夫	杉山 信明	鈴木 昭男
鈴木 朝夫	鈴木 英夫	住友 元夫	角野 尚徳	角谷三四郎	相馬 胤和
染野 檀	田阪 興	田中 良平	田畑新太郎	高梨 省吾	高橋 孝吉
高橋 忠義	高橋 久	武井 英雄	竹下 勅三	館 充	堤 信久
土居 浩一	土手 彬	徳永 洋一	豊田 茂	奈古屋嘉茂	中川 龍一
永井 親久	二上 愛	西岡 邦夫	西澤 一彦	羽鳥 幸男	長谷川正義
蜂谷 茂雄	林 主税	春山 志郎	久松 敬弘	平世 将一	不破 祐
深川彌二郎	福岡 利和	藤原 達雄	前河 宏昌	牧野 迪夫	松原 博義
三田 勝茂	宮川 松男	森 勉	森田善一郎	八木貞之助	八木 靖浩
八塚 健夫	藪田 東三	山本 健一	横河 正三	横地 節男	吉崎 鴻造
米倉 功	渡辺 省三				

第7・8回白石記念講座

—— 新しいセンシング技術 ——

主催 日本鉄鋼協会

第7・8回白石記念講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

I 期日 第7回 昭和60年6月11日(火), 12日(水)

東京 農協ホール(千代田区大手町 1-8-3 TEL 03-279-7456)

第8回 昭和60年6月18日(火), 19日(水)

大阪 YMCA 会館 9階 903号(大阪市西区土佐堀 1-5-6 TEL 06-441-0893)

II 演題ならびに講演者

[第1日]

9:30~10:30	最近のセンサの動向	東京大学計数工学科	豊田 弘道
10:40~12:10	センサと材料	(株)富士電機総合研究所	矢部 正也
13:00~14:30	光応用センサ	東京工業大学制御工学科	小林 彬
14:40~16:10	レーザ・光ファイバ応用センサ	理化学研究所	山口 一郎

[第2日]

9:30~11:00	超音波センサ	東計エンジニアリング(株)	山本 美明
11:10~12:40	放射線応用センサ	日本原子力研究所アイソトープ事業部	富永 洋
13:30~15:00	電波応用センサ	電気通信大学応用電子工学科	鈴木 務
15:10~16:40	磁気センサ	電子技術総合研究所電子デバイス部	藤定 広幸

III 講演内容

1) 最近のセンサの動向 豊田 弘道

センサ用素子の進歩と計測ニーズの多様化・高度化との関連を通観するとともに、センサと測定対象とのインターフェイスの諸問題にもふれる。また、日本鉄鋼協会共同研究会計測部会におけるセンサ関連動向と、高度技術であるリモートセンシングの特徴を要約する。

2) センサと材料 矢部 正也

材料技術はセンサの機能、特に検出端の変換機能、の実現において基本的な役割を果たしてきた。変換機能デバイスを構成する無機・有機諸材料の応用の現状、動向、課題等を概説すると共に、センサとしての性能と信頼性を制約する材料的要因について周辺材料も含めて示す。

材料の科学と技術の変革はセンサ技術の新たな展開をもたらす。積層薄膜、微細加工、その他種々の新技術は高機能の変換デバイスを産みつつある。

3) 光応用センサ 小林 彬

光通信の進展に伴い、結果として各種光学部品が整備され、光応用計測実用化の気運が高まっている。

本講義では、まず光応用計測から考えた光の基本的機能を総括し、次にインコヒーレント光を中心に光源や光検出器の種類とその特性を纏め、特に最近のLEDやCCDなど固体素子の現状を説明する。また機械量計測や画像計測への応用についての最近の動向を述べ、さらにロボット技術や分析技術への展開可能性を探る。

4) レーザ・光ファイバ応用センサ 山口 一郎

高い単色性、指向性、パワー密度を特長とするレーザは精密計測や過酷な環境下の計測に新局面を拓いた。また光ファイバは単に光の柔軟な伝送路だけでなく、それ自身がセンサにもなっており、活発に研究されている。レーザとファイバの基本的な性質と、それらが各種の計測にどう生かされるかを説明する。とりあげる分野は、変位、速度、加速度、歪、応力、振動、距離、位置、形状、粒度、温度、圧力、電磁界等である。実用化における課題についても言及する。

5) 超音波センサ 山本 美明

最近の画像処理技術の著しい進歩と共に、医用診断装置や各種工業計測器に利用される超音波センサ技術の向上はめざましく、またそれに伴い新しい超音波センサが次々に開発されてきた。ここではアレイ形センサや電磁超音波探触子など各種超音波センサにつき説明し、それらを応用した医用、海洋用、及び工業用計測器などにつき、計測原理、性能及び実用状態などにつき全般的な説明を行うと共に、特に最近の進歩につき言及する。

6) 放射線応用センサ 富永 洋

X線、 γ 線の透過や散乱によっても、特殊な幾何学的あるいは物理的条件をとることにより、従来にはない計測を可能にすることができる。しかしそれとは全く異なるものとして、中性子を用いることによつて、新しいラジオグラフ

イ、CTのほか、種々の分析的計測が展開される。また他方、加速器からの荷電粒子ビームを用いる PIXE, PIGE, RBS 等各種の表面微量分析法が注目を集めつつある。これらの新しい手法について紹介を行う。

7) 電波応用センサ 鈴木 務

電波を応用した各種の電波センサについてその特色、設計や利用上の問題点、具体的な応用例および電波センシングの動向などについて述べる。電波のもつ個有の特性を利用することから他の方法では得られない新しいセンサが可能となる。電波を利用したリモートセンシング、地中や水中の探査、医用としての無侵襲センサ、大型橋や建物などに対する電波センシングによる環境計測、生体と電波の関係などの新しい電波の応用について実例により解説する。電波をセンサとして利用する分野はまだ開発中であるが電波センサの将来性は期待できるものであることを紹介する。

8) 磁気センサ 藤定 広幸

磁気センサには多くの種類があり、センサとしての歴史も古い。コイルの電磁誘導を利用したもの、ホール素子、磁気抵抗素子などの半導体を用いたもの、パーマロイなどの強磁性体金属薄膜の磁気抵抗効果を用いたもの、プロトン磁力計、光ポンピング磁力計のように原子核などの共鳴現象を利用したもの、SQUIDのような超電導現象を利用したものなどが代表的であり、それぞれの特長を生かして、多くの分野で利用されている。

これらの各種磁気センサの原理、特長、利用分野などの現状を簡単に紹介すると共に、最近特に進展の著しい半導体磁気センサについては少し詳細に紹介する。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V 資料代 1,000 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ: チタンおよびチタン合金

原稿締切日 昭和 60 年 8 月 9 日 (金)

本会では昭和 60 年春季講演大会より、従来の鉄鋼を中心とした部門に加え、「萌芽・境界技術」部門を新設し、その中でチタンおよびチタン合金に関するセッションを設け実施しております。

このたび、会員の強い要望により、会誌「鉄と鋼」でも、チタンおよびチタン合金に関する特集号を企画することにいたしました。内容は、スポンジチタンの製造から溶解、鋳造、加工など製造技術に関するもの、またチタン合金の分析・性質・評価・利用技術に関するものなど、基礎から応用にわたる広い範囲で、論文・技術報告を募集いたします。多数の投稿を歓迎いたしますので奮ってご応募下さい。

記

1. 原稿締切日 昭和 60 年 8 月 9 日 (金)

2. 発行 鉄と鋼 第 72 年第 6 号 (昭和 61 年 4 月号)

3. 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上がり 8 ページ以内 (表, 図, 写真を含めて本会所定の原稿用紙 40 枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。

・投稿された原稿は編集委員会において審査されます。

4. 問い合わせ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F

(社)日本鉄鋼協会編集課「チタン特集号」係 電話 03-279-6021 (代)

(注) 投稿時、原稿表紙に「チタン特集号」と朱書して下さい。

第 106・107 回 西山記念技術講座

—— 表面処理鋼板の現状と今後の動向 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 106・107 回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

I 期 日 第 106 回 昭和 60 年 9 月 2 日(月), 3 日(火)

東京 経団連ホール (千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-1411)

第 107 回 昭和 60 年 9 月 10 日(火), 11 日(水)

大阪 科学技術センター大ホール (大阪市西区靱本町 1-8-4 TEL 06-443-5321)

II 演題ならびに講演者

[第 1 日]

9:30~11:00	溶融亜鉛めつき鋼板製造技術の進歩	日本鋼管(株)中央研究所	原 富啓
11:10~12:40	電気めつき鋼板製造技術の進歩	川崎製鉄(株)技術研究所	市田 敏郎
13:30~15:00	表面解析技術の進歩と応用	新日本製鉄(株)第一技術研究所	大坪 孝至
15:10~16:40	自動車用防錆鋼板および要求される諸特性	新日本製鉄(株)第二技術研究所	北山 實

[第 2 日]

9:30~11:00	容器用材料の最近の進歩と動向	東洋鋼板(株)技術研究所	乾 恒夫
11:10~12:40	溶融めつきによる新製品	日新製鋼(株)阪神研究所	広瀬 祐輔
13:30~15:00	塗装鋼板の製造技術と製品	住友金属工業(株)中央技術研究所	西原 実
15:10~16:10	複合鋼板の製造技術と特性	(株)神戸製鋼所加古川製鉄所	郡田 和彦

III 講演内容

1) 溶融亜鉛めつき鋼板製造技術の進歩 原 富啓

ニーズの多様化にともなつては片面めつき, 差厚めつき, ウルトラスムーズ, 化成処理製品など, 多様化する製品の製造技術を紹介する。また高速化, 省エネルギー関連の最近の技術, CC 材適用にともなつて派生するめつき層密着性改善技術などを概説する。更に今後の展望として真空蒸着技術にも言及する。

2) 電気めつき鋼板製造技術の進歩 市田 敏郎

まず自動車用, 家電用を主用途とする純亜鉛系電気めつき鋼板及び亜鉛系合金電気めつき鋼板について, 次いで缶用材料としてのぶりき, ティンフリースチールについて, その製造プロセスにおける最近の進歩をラインの高速化・自動化・省力化と製品品質の多様化・高級化の観点から概説する。電解液の自動管理システム, 製品のオンライン分析システムについても論及する。

3) 表面解析技術の進歩と応用 大坪 孝至

表面処理鋼板の諸特性を考察するに際して, その基本データとして冷薄鋼板の表面およびめつき層とその表面の化学組成や化学結合状態を知るために必要な表面解析技術の現状と最近の進歩を述べる。

つづいて, 主として冷薄鋼板や各種表面処理鋼板を種々の表面解析装置を用いて解析した例をあげて, その有用性と適用限界を述べる。

4) 自動車用防錆鋼板及び要求される諸特性 北山 實

自動車車体防錆問題が世界的に提起されて久しいが, 各日本の鉄鋼業は, それ相応の防錆鋼板を開発してきた。その過程で, 当然車体防錆にかかわる要求特性の把握とその意義の解明, 更にはそれらの評価法についても検討され, 討論された。

車体のみならずタンク, エギゾーストパイプを含めて, 製品をはじめ, これらの技術的内容を明らかにし, 今後の残された問題解明に供したい。

5) 容器用材料の最近の進歩と動向 乾 恒夫

社会環境の変化によつて, 容器, 特に食品容器には経済性及び食品の保存という基本性能のほか, 簡便性, フェッション性などが要求されている。そのため, この食品容器業界において, ぶりき, ティン・フリー・スチールなどの表面処理鋼板はアルミニウム, プラスチック, ガラス, 紙及びそれらの複合材料と激しく競合している。

これらの競合材料の最近の動向を述べるとともに, 製缶技術の発展にともない, 経済性及び品質特性で要求がきびしくなつた表面処理鋼板の最近の技術的な進歩と今後の動向について述べる。

6) 溶融めつき鋼板の製造技術と新製品 広瀬 祐輔

近年の需要家サイドでの高品質化指向および素材コスト低減の努力は新しい表面処理鋼板の開発に拍車をかけている。ここでは、この 20 年間に飛躍的な伸びを示している溶融亜鉛めつき鋼板、溶融アルミめつき鋼板、ターンめつき鋼板および Zn-Al 系合金めつき鋼板を取り上げ、その品質特性ならびに製造性の進歩を紹介するとともに、今後の開発動向について言及する。また、圧着・圧接などの方法によつて製造されているクラッド鋼板についても若干の紹介を加える。

7) 塗装鋼板の製造技術と製品 西原 實

製造技術については、塗装用母材、前処理を含め、ロール・コート法を主体に各種塗装法を概説する。また硬化法としては熱硬化法を主体に、紫外線・電子線硬化法にも言及する。

製品については分野別に項を分け、自動車用としてジंकリッチ系、無機-有機-めつき複合鋼板の動向、潤滑鋼板、家電用として高加工用、意匠性のある塗装、ラミネート鋼板について概説する。また建材用として着色亜鉛鉄板に加え長期保証用に関して言及する。

8) 複合鋼板の製造技術と特性 郡田 和彦

サンドウィッチ型の制振鋼板と軽量化ラミネート鋼板に絞つて話を進める。はじめに騒音規制や軽量化要求などの、複合鋼板に対する社会的ニーズについて概説する。ついで複合鋼板の製造技術と基礎的特性について述べる。基礎特性とは制振鋼板では制振特性、損失係数におよぼす諸因子の影響、遮音特性などであり、軽量化ラミネート鋼板では重量と剛性、耐クラッキング性などである。さらに複合鋼板のプレスや溶接などの加工性について述べ、最後に今後の課題についてふれる。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：表面処理

原稿締切日 昭和 60 年 10 月 11 日 (金)

最近の表面処理技術の進歩発展はめざましいものがあり、低成長時代に入った鉄鋼業の中にあつて、量的にも質的にも拡大を続けている数少ない製品分野であります。

一方先端技術分野の中でも表面処理はエッチングから薄膜製造技術にいたるまで広く応用され、急速に進展しております。

今回の特集ではこれら表面処理技術を幅広くとりあげる予定です。すなわち、表面解析など表面処理技術を支える基礎技術から、鉄鋼分野においては薄板、鋼管、条鋼線材などまで包含する表面処理製品および製造、利用技術、更には将来応用分野の拡大が予想される新しい表面処理技術まで、下記に例示した内容を含みます。

これらに関連する論文、技術報告など多数の投稿を歓迎いたします。

- 表面解析と特性
- 腐食機構、腐食挙動 (試験法を含む)
- 溶融めつき、電気めつき (製造設備、製造技術など)
- 有機塗覆装 (ラミネートを含む)
- 化成処理
- 製品特性および利用技術 (自動車用、缶用など)
- 機能性表面処理と新技術 (PVD, CVD などを含む)

記

1. 原稿締切日 昭和 60 年 10 月 11 日 (金)
2. 発行 鉄と鋼 第 72 年第 8 号 (昭和 61 年 6 月号)
3. 原稿枚数 論文および技術報告とも刷り上がり 8 ページ以内 (表、図、写真を含めて本会所定の原稿用紙 40 枚以内)

(注) ○ 原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。
○ 投稿された原稿は編集委員会において審査されます。

4. 問い合わせ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F (社) 日本鉄鋼協会編集課「表面処理特集号」係
電話 03-279-6021 (代) (注) 投稿時、原稿表紙に「表面処理特集号」と朱書して下さい。

第 3 回鉄鋼圧延国際会議開催のお知らせ

主催 (社)日本鉄鋼協会

本会では第3回鉄鋼圧延国際会議 (The Third International Conference on Steel Rolling) を下記のとおり開催いたします。現在 3rd circular を関係各位に配付し会議参加者を募っておりますので、多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

1. 日 時 昭和 60 年 (1985年) 9月2日(月)～6日(金)
2. 会 場 経団連会館 (東京・大手町)
3. 用 語 発表, 討論とも英語 (通訳はつきません)
4. テーマ Technology of Pipe and Tube and their Application
5. 参加費 5万円 (論文集, パーティー代を含む)
6. 参加申し込み締切 昭和 60 年 7月 15 日 (月)
7. 提出論文 開会講演 3 件の他に, 下記 31 セッションに国内外合わせて 101 件の一般論文が発表されます。
8. セッション
 1. Seamless Pipe Manufacturing Process (1)
 2. Seamless Pipe Manufacturing Process (2)
 3. UOE Process
 4. Welding Process
 5. Piercing (1)
 6. Piercing (2)
 7. Cross Rolling
 8. Mandrel Rolling (1)
 9. Mandrel Rolling (2)
 10. Recent Trend of ERW Facilities
 11. New Welded Pipe Mills
 12. New Approach of Welding Technology
 13. Forming Roll Design
 14. Cold Rolling and Drawing Mechanism
 15. Stretch Reducing
 16. Pilger Mill and Ring Rolling Mill
 17. Hot Extrusion Process
 18. Application of Powder Metallurgy
 19. Billet Making Technology
 20. New Technology of Cold Rolling and Drawing (1)
 21. New Technology of Cold Rolling and Drawing (2)
 22. Line Pipe (1)
 23. Line Pipe (2)
 24. Line Pipe (3)
 25. Corrosion Resistant Alloys
 26. Low Alloy Steels for Corrosive Environment
 27. New Tubular Products
 28. Heat Treatment
 29. Finishing Line
 30. Non-destructive Inspection
 31. New Method of Inspection
9. 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社)日本鉄鋼協会 国際課
3rd Steel Rolling Conference 担当 (佐藤, 山崎)
電話 (03) 279-6021 内線 34 (山崎)

「融体精錬反応の物理化学とプロセス工学」シンポジウム

—— 融体精錬反応部会報告 ——

日本鉄鋼協会，日本金属学会，日本学術振興会三者共同の鉄鋼基礎共同研究会 融体精錬反応部会は昭和 60 年 1 月を以つて約 5 年にわたる研究活動を終了いたしました。部会の研究成果をまとめて，下記の通り公開シンポジウムを開催いたしますので，多数御来聴下さいませよう御案内申し上げます。

1. 期 日：昭和 60 年 6 月 13 日(木)，14 日(金)

2. 場 所：農協ホール（農協ビル 9 階）TEL. 03-245-7456

（〒100 千代田区大手町 1-8-3 地下鉄東西線，千代田線，都営三田線 大手町駅下車徒歩約 5 分）

3. 演 題

〔第 1 日〕

10:00~10:10	部会経過報告	部会長・名古屋大学工学部	森 一美
10:10~10:30	NaO 基スラグ中の成分酸化物の活量の測定	東京工業大学工学部	後藤 和弘
10:30~10:50	溶銑処理用ソーダ系スラグの熱力学	東京大学工学部	佐野 信雄
10:50~11:10	正則溶液モデルによるスラグ成分の活量算出	東北大学工学部	萬谷 志郎
11:10~11:30	石灰系スラグの熱力学	大阪大学工学部	荻野 和巳，原 茂太
11:30~11:50	溶銑脱りん用石灰系フラックスの熱力学	京都大学工学部	一瀬 英爾，岩瀬 正則
11:50~12:10	質量分析法によるスラグ中の P ₂ O ₅ の活量の測定	早稲田大学理工学部	加藤 栄一
13:10~13:30	製鋼スラグ-溶鉄間の P, S, Mn, O の分配平衡	東北大学選鉱製錬研究所	水渡 英昭
13:30~14:20	討 論		
14:30~14:50	CaO-CaF ₂ -Al ₂ O ₃ 系フラックスによる溶銑の脱りん速度	九州大学工学部	森 克巳
14:50~15:10	スラグ-溶融金属間反応系における物質移動速度	名古屋大学工学部	森 一美，佐野 正道，平沢 政広
15:10~15:30	通気攪拌下の気-液系物質移動	東北大学工学部	菊池 淳
15:30~15:50	液体金属中への吹き込みガスの分散挙動と気液混相の流動	名古屋大学工学部	佐野 正道，森 一美
15:50~16:10	連続溶解還元炉における浴内攪拌	科学技術庁金属材料技術研究所	福沢 章
16:10~16:30	炉外精錬プロセスにおける混合と物質移動	(株)神戸製鋼所材料研究所	尾上 俊雄
16:30~17:00	討 論		

〔第 2 日〕

9:30~9:50	製鋼プロセスにおける不純物低減の必要性とその精錬法	川崎製鉄(株)技術研究本部	江見 俊彦
9:50~10:10	ソーダ灰による溶鉄，溶鋼の精錬	住友金属工業(株)鹿島製鉄所	丸川 雄浄
10:10~10:30	溶銑予備処理（ソーダ系，石灰系）	新日本製鉄(株)中央研究本部	原島 和海
10:30~10:50	石灰系フラックスおよびソーダ系を用いた溶銑脱りんにおける酸素の効果	日新製鋼(株)呉製鉄所	中島 義夫
11:00~11:20	溶銑脱りんの反応機構	日本鋼管(株)中央研究所	中村 英夫
11:20~11:40	石灰系フラックス・インジェクションによる溶銑処理	(株)神戸製鋼所技術開発本部	成田 貴一
11:40~12:00	各種反応炉における溶銑処理の開発とその反応モデル	川崎製鉄(株)技術研究本部	野崎 努
12:00~12:20	高炉鑄床における連続脱珪，脱りん処理	日本鋼管(株)中央研究所	山田 健三
13:20~14:20	討 論		
14:20~14:40	上底吹転炉の脱りん	新日本製鉄(株)中央研究本部	大河平和男
14:40~15:00	溶鋼の脱りん	大同特殊鋼(株)中央研究所	小野 清雄，杉浦 三朗，池田 雅宣
15:10~15:30	ステンレス粗溶鋼の脱りん	住友金属工業(株)中央技術研究所	松尾 亨
15:30~15:50	CaC ₂ -CaF ₂ による還元精錬	新日本製鉄(株)中央研究本部	片山 裕之
15:50~16:10	Ca, CaC ₂ による高クロム鋼の精錬	(株)日本製鋼所室蘭製作所	竹之内朋夫
16:10~16:40	討 論		
16:40~16:55	総 括		

4. テキスト代 4,000 円

5. 問合せ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社)日本鉄鋼協会 技術部 藤嶋 一郎 TEL. 03-279-6021

北海道支部

昭和 60 年度春季講演会開催のご案内

日時：昭和 60 年 6 月 6 日(木)，7 日(金)

場所：室蘭工業大学 学生会館

第 1 会場 (6 月 6 日) 9:30~

1. シャルピー衝撃試験結果からの破壊じん性 K_{IC} の推定
日鋼 寺島周平ほか
2. 微小硬さと引張り強さ及び脆化遷移温度との関係
室工大 原田雄樹ほか
3. 微小引張試験における引張強さの寸法効果
室工大 久保立身ほか
4. 鋳鋼の微小凝固欠陥と疲労特性
苫小牧高専 大島聡範ほか
5. 快削鋼鋳片における MnS, Pb 粒分布状況について
新日鉄 磯部浩一ほか
6. 自動車用熱鍛非調質鋼の開発
新日鉄 坂口 聡ほか
7. MnS 塑性変形能と被削性の関係について
新日鉄 柳瀬雅人ほか
(12:10~17:20) 支部評議員会, 支部総会, 特別講演,
湯川記念講演
- 第 1 会場 (6 月 7 日) 9:00~
8. 極低炭素鋼の焼入れ時効過程における電気抵抗変化に及ぼす N の影響
室工大 佐藤一雄ほか
9. 3.5%NiCrMoV 鋼の諸特性に及ぼす極低 Mn の影響
日鋼 大橋建夫
10. 銅の腐食抑制剤としてのイノシトール及びイノシトール燐酸エステル
北大 能登谷武紀
11. Special Point Family と Short Range Order Diffuse Intensity に関する理論的考察
北大 毛利哲雄ほか
12. Cr-Ni マルテンサイト系ステンレス鋼の応力腐食割れに関する研究
日鋼 吉野勇一
13. セミ・オーステナイト系析出強化型ステンレス鋼の熱処理と機械的性質
日鋼 附田之欣ほか
14. 鋳造合金の結晶組織変化の要因について
北大 高橋忠義ほか
15. 中性子ラジオグラフィによる凝固欠陥の検出
室工大 桃野 正ほか
16. 貴金属 β 相のペイナイト変態における原子の移動
北大 武沢和義
17. Cu-Zn-Al および Ag-Zn 合金のペイナイト変態
北大 渡辺 洋ほか
18. 高温下における Cu-Zn 合金の脱亜鉛挙動
室工大 吉田敏典ほか
19. 整列組織を持つ Ni_3Al-Ni_3Nb 共晶合金の強度
北大 堀江俊男ほか

20. 過共晶 Al-Si 合金の組織と摩耗について
釧路高専 小林 勲ほか
21. 液体急冷法による非晶質合金薄帯の磁気異方性
室工大 谷口 哲ほか
22. チタン箔インサートによるアルミニウム合金と S20C 鋼の拡散溶接
室工大 桃野 正ほか
23. チタン硼化物の電解析出に関する研究 (第 1 報) —ニッケル電極への析出挙動—
北大 成田敏夫ほか
24. VLS 法によるシリコンウイスキーの成長とその性状
北大 山本克郎ほか
25. Ni/Ti 薄膜の粒子線照射による相変化
北大 大貫惣明ほか
26. YMn_2 の圧力誘起相変態 II
北大 巨海玄道ほか
27. Dense Kondo 系 $CeCu_6$ の電気抵抗の圧力効果
北大 柴田明夫ほか
- 第 2 会場 (6 月 7 日) 9:20~
28. Al アルコキシドを用いた Si_3N_4 の焼結について
北大 米田寿之ほか
29. Ti と Si_3N_4 の相互反応について
北大 黒川一哉ほか
30. セラミックス金属接合体の強破断度に対する表面研削の効果
北大 成田敏夫ほか
31. 液体急冷法による非晶質合金薄帯 $Fe_{78}B_{13}Si_9$ の磁化分布
室工大 保志賢介ほか
32. 非晶質合金の残留応力緩和
室工大 山村秀美ほか
33. 非晶質合金のクリープ特性
室工大 山村秀美
34. 非晶質 $Fe_{80}B_{20-x}Gex$ 合金の結晶化過程
室工大 児玉尊嗣ほか
35. 鉄鉱石還元と石炭チャーガス化同時反応
北大 日野賢二ほか
36. 転炉炉体冷却技術による効果
新日鉄 柴田充蔵ほか
37. 熔融鉄中への炭素鋼の溶解速度
室工大 吉田英明ほか
38. MgO 飽和 $CaO-MgO-Fe_2O_3-SiO_2$ 系スラグと溶鉄との間の硫黄の分配平衡
室工大 曹 定ほか
39. MgO 飽和 $CaO-Al_2O_3-MgO$ 系スラグと溶鉄との間の硫黄の分配平衡
室工大 曹 定ほか
40. 溶鋼加圧脱 P 技術の基礎研究
新日鉄 河内雄二ほか
41. V 偏析の生成機構について
新日鉄 磯部浩一ほか
42. 鋼の包晶反応温度におよぼす合金元素の影響
日鋼 成田英記
43. 連続鋳造におけるパウダーの流入潤滑機構の解析
新日鉄 安斉栄尚ほか

昭和61年春季(第111回)講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和61年春季(第111回)講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 検出端情報に基づく高炉内の解明 座長 大森 康男(東北大), 副座長 稲葉 晋一(神鋼)

高炉解体調査を契機として、その炉内現象の理解が著しく進み、大型高炉では、その径方向、円周方向で分布をもつことが判明した。

これらの分布は操業条件の変化に伴つて、多様な変化をうながし、かつ、しばしば時間的な遅れ現象が認められる。

このような変化を検知し、制御する目的で、数多の検出端が設置され多くの情報が取得されている。そこで、

- 1) いかなる検出端情報によつて、炉内、特に炉下部の現象がどのように解明されるか。
- 2) 解明された炉内現象をいかに制御技術に結びつけるか。
- 3) 炉内現象をいつそう明確にし、制御性を向上させるために、今後必要となる検出端は何か。

等について討論する。

2) 合金溶鋼の脱りん 座長 佐野 信雄(東大), 副座長 長谷川守弘(日新)

近年のステンレス鋼及び高マンガン鋼の材質向上の要求に応じて、従前にはない強塩基性のフラックスによる酸化脱りん及び新しい考えとしてアルカリ土類金属化合物による還元脱りん法が提案されている。特に最近では熔融還元法または転炉への鉍石添加による新しい合金鋼の溶製技術の開発が進められているが、混入するりん除去の対策なしにはプロセスそのものの成立が覚束ない。このような目的意識を念頭において、高合金鋼の脱りんに関する討論会を開催するので、日頃の研鑽成果を基礎・応用にかかわらず発表されるよう期待したい。

3) 圧延における計測制御 座長 北尾 斉治(川鉄)

圧延における計測制御技術は、エレクトロニクスやコンピュータの発達とともにこの四半世紀で飛躍的に発展した。最近製品の付加価値化や生産性向上を狙いとして設備新鋭化や新ミルの開発の動きがあり、すでに従来にはない当技術の適用例が出現しているが、よりいつそうの進展が望まれている。本討論会ではプラント単位の実施例、新技術の適用例にもとづき、性能・信頼性・実用性などについて討論する。各方面からの発表と活発な討論を期待する。

4) 油井管における最近の進歩 座長 細井 祐三(名古屋大)

油井の深井戸化に伴い、油井はサワー環境であるとともに、ますます高温高圧化し、また採油効率をあげるためのCO₂吸込みなどによる二次、三次回収により、複雑な苛酷な腐食環境となり、油井管の高耐食性化、高強度化が要求されている。そのため油井管はステンレス鋼をはじめNi基耐食合金など高合金化が進められている。本討論会ではこのような状勢をふまえ、H₂S+CO₂(+NaCl)環境と材料の腐食反応の検討、合金元素の役割、高耐食性化、高強度化の現状と問題点等について活発な討論を行い、今後の研究の方向などを示唆することを期待している。

5) 鉄鋼における表面分析の現状と問題点 座長 広川吉之助(東北大), 副座長 大坪 孝至(新日鉄)

ステンレス鋼表面で代表されるような鉄鋼の耐環境性の問題を始め、各種表面処理鋼板の表面分析と、それを基礎とした表面制御や処理方法の開発。一方粒界・脆性破断、そして鉄鋼と有機・無機物質との接合面など材料の強度に関係して鉄鋼の表面分析は鉄鋼材料の加工、開発に不可欠な情報源であります。鉄鋼表面分析の現状と問題点について事例を含め、多角的な討論を期待します。

2. 申込締切日 昭和60年8月2日(金)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書をご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に400字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和60年11月1日(金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め1ページ6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。(原稿用紙、1枚30円)

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第72年第1号(昭和61年1月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第72年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和61年2月28日

前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021(代)

石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和60年 6 月28日(金)

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもって、「石原・浅田研究助成金制度」を設け昭和 47 年度より助成金を交付しております。ついては、今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者は協会所定の様式をもって応募して下さい。

記

1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する本会会員、またはそのグループとし、研究者の年齢は昭和 60 年 4 月 1 日現在満 36 才未満（昭和 24 年 4 月 2 日以降の生れ）とする。（大学院博士課程学生を含む。）

2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年以内とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

3. 交付金額

1 件 40 万円, 10 件以内

4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の項目は次の通りである

- (1) 研究課題
- (2) 研究者氏名, 所属, 他
- (3) 研究の目的
- (4) 研究の実施計画, 方法
- (5) 研究の特色, 独創的な点
- (6) 従来の研究経過, 成果または準備状況
- (7) 同種研究の国内外における研究状況
- (8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 社団法人日本鉄鋼協会 総務部 庶務課宛

4) 申請締切 昭和 60 年 6 月 28 日 (金)

5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行い、理事会で決定する

6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に報告し、同時に研究者またはグループの代表者に通知する。

7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 2,000 字程度の報告書を作成し研究期間終了後 1 カ月以内（最終期限は昭和 63 年 2 月末日）に提出しなければならない。この報告書は会誌「鉄と鋼」に掲載する。また研究成果について発表する際には本助成金を受けた旨を明記し、その一部（コピーでも可）を提出するものとする。

なお、助成金についての経理報告は必要がない。

9. 石原・浅田研究助成金について

昭和 33 年以来故石原米太郎殿（当時、特殊製鋼株式会社社長、同社は昭和 51 年 9 月に大同製鋼株式会社および日本特殊鋼株式会社の 3 社合併により、大同特殊鋼株式会社となる）の寄贈により石原米太郎研究資金が設定されその果実をもって研究助成金の交付を行っておりましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念資金の毎年の果実の過半も研究助成金にあてることになりました。そこでこれらを一つにまとめて「石原・浅田研究助成金」と改称して昭和 47 年度から交付しているものです。

第 5 回日向方斉学術振興交付金の希望者募集案内

申込締切日・昭和60年9月6日(金)

本会では住友金属工業株式会社から取締役会長日向方斉氏の功績記念のため寄贈された金五千万円の資金をもつて鉄鋼関係学術振興のため「日向方斉学術振興交付金制度」を設置しておりますが、標記の通り募集をすることになりました。希望者は所定の申請書様式（本協会にご請求下さい）により応募して下さい。

尚、昨年より年2回春と秋に募集をすることになりました。

記

1. 本制度の目的

大学、研究機関等にいる鉄鋼関係の若手研究者が海外で開催される国際研究集会（これに準ずるものを含む）に優れた研究成果を発表するために必要な渡航費等を支弁することを目的とする。

2. 応募資格

1) 国公立の大学、工業高等専門学校等または国公立研究機関（特殊法人を含む）に在職中または在学中の本会会員（正会員、学生会員）で、2) 国際研究集会の開催時の年齢が満40歳未満でありかつ、3) 本会会誌またはその他の学術的刊行物に研究成果の発表をしたことのある者。

3. 対象国際研究集会

昭和61年1月から昭和61年12月までに開催される国際研究集会で技術分野は、本会が春秋に行っている講演大会の範囲の集会、尚原則として同一の国際研究集会に複数名は出席できませんので「鉄と鋼」会告欄の受給決定者を参照して下さい。

4. 支弁する交付金の内容

1) 航空運賃（必要最少限のエコノミー料金）、2) 滞在費（集会開催日の前日から終了日の宿泊まで）、3) 参加登録費

5. 申請方法 本会所定の申請書様式により本人が申請する。

“記入内容の概略”

1. 住所、氏名、生年月日、所属職名、正会員・学生会員の別
2. 過去の研究業績（本会会誌またはその他の学術的刊行物への投稿論文、共著者名記載）
3. 出席する国際研究集会の名称、主催者、会期、開催地
4. 発表する論文の主な内容（共著者名記載）
5. 参加資格（座長、招待講演者、一般講演者等の別）
6. 必要経費の概算額
7. 他機関への旅費等の申請の有無

6. 交付件数 5件以内

- #### 7. 受給者の義務
1. 出席報告書の提出（原則として会誌「鉄と鋼」に掲載）
 2. 発表論文の提出（著作権上可能な限り会誌「Trans. ISIJ」に掲載）

8. 申請書様式請求先及び申請書提出先

〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号 経団連会館3階
社団法人 日本鉄鋼協会 総務部 庶務課 (Tel. 03-279-6021)

9. 申請書締切日 昭和60年9月6日(金)

10. 交付決定通知

交付決定者には昭和60年10月11日までに通知し、本会会誌に氏名、発表論文題目、発表する国際研究集会名を掲載する。

第 4 回日向方斉学術振興交付金受領者決定のお知らせ

この度選考委員会及び理事会において下記 4 名に第 4 回日向方斉学術振興交付金を交付することに決定しましたのでお知らせします。

- 横野 哲 朗 北海道大学工学部金属化学研究施設炭素系部門助手
第 17 回炭素学会 1985 年 6 月 16～21 日 レキシントン アメリカ
- 早稲田 嘉 夫 東北大学選鉱製錬研究所助教授
第 3 回非晶質物質の構造に関する国際会議
1985 年 7 月 8～12 日 グルノーブル フランス
- 植木 正 憲 金沢工業大学工学部助教授
材料の微視組織と力学的挙動に関するシンポジウム
1985 年 10 月 21～24 日 西安 中華人民共和国
- 猶原 隆 愛媛大学工学部助手
第 1 回国際急冷凝固材料会議 1986 年 2 月 3～5 日 サンディエゴ アメリカ

Ⅴ 第 42 回金属表面アカデミック研究会討論会

「非水溶液からの電析」開催のお知らせ

- 主催：金属表面技術協会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか
日時：昭和60年7月30日（火）13:00～17:00
会場：日本化学会講堂（東京都千代田区神田駿河台 1-5
電 292-6161）
講演：1. 非水溶液中での電位測定
信州大 伊豆津公佑
2. 非水溶液からのアモルファスシリコンの電析
三重大 山本 治
3. 非水溶液からのアルミニウムの電析
佐賀大 芳尾 真幸

パネルディスカッション司会
岸 富也（慶応義塾大学 理工学部）

Ⅵ 「シンクロトロン放射光—新しい科学・技術の旗手」 講習会のお知らせ

- 主催：日本物理学会 協賛：日本鉄鋼協会、日本分析化学会、他 30 学協会
東京会場
期 日 1985年7月9日～11日
場 所 野口英世記念会館（東京都）
関西会場
期 日 1985年7月11日～13日
場 所 日本生命中之島研修所（大阪市）
聴講料（テキスト1部の代金、送料を含みます）
一般 18,000円、会員 14,000円、学生 9,000円
本協会会員は会員と同じ聴講料とします。
申込・問合先 社団法人 日本物理学会 講習会係
105 東京都港区芝公園 3-5-8
機械振興会館 211 号室
電話 03-434-2671（代表）

Ⅶ プラズマ分光分析研究会 85 筑波セミナー

「プラズマ分光分析法の公定化と新しい展開」開催通知

- 主催：プラズマ分光分析研究会 協賛：（社）日本鉄鋼協会、他 10 学協会、協賛機器メーカー 8 社。
期日：昭和60年7月17日（水）～19日（金）2泊3日
場所：筑波学園都市研修センター 電話 0298-51-5152
参加費、宿泊費
会 員* 参加費 30,000円+宿泊費 25,000円=55,000円
非会員 〃 35,000円+ 〃 25,000円=60,000円
学 生 〃 5,000円+ 〃 25,000円=30,000円
* 協賛学協会会員を含む

参加申し込み締切り日：昭和60年6月28日（金）
先着 50 名

申し込み及び詳細問い合わせ先

国立公害研究所計測技術部 森田昌敏
電話 0298-51-6111（内）334

〒305 茨城県筑波郡谷田部町小野川 16-2

Ⅷ 日本工学会第 49 回見学会のお知らせ

- 期 日 昭和 60 年 6 月 28 日（金）
見学機関 工業技術院地質調査所：茨城県谷田部町東
1-1-3（電話：0298-54-3630）
同 公害資源研究所：茨城県谷田部町小野川
16-3（電話：0298-54-3022）
予 定 東京駅丸の内口旧丸ビル明治屋横（バス）
9:30 出発 東京駅 17:00 頃解散
参加人員 先着 40 名
参加費 2,500 円（バス代及び昼食代）
申 込 任意の用紙に氏名、勤務先職名、連絡先なら
びに所属学協会名をご記入のうえ、参加費を
添えて下記へお申込みください。
申込先 〒107 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル内
社団法人 日本工学会 電話：03-475-4621